



静岡県浜松市中区・西区



水と縁恵まれた土地、「佐鳴湖」

ここは静岡県浜松市にある湖で、湖を取り囲む周辺のまちは、市街地への人の流れや高齢化に伴いコミュニティの衰退が進み、**新興住宅地は約 20 年が経過**し、他の地方都市同様、**少子化・人口減少が進む未来**にある。

そのような中で、恵まれた環境があるにも関わらず、人々が集まる共有空間が設けられていない。ボート競技が盛んなこの土地で、まちの人々に愛される新しいコミュニティのプログラムを提案したい。

02 背景

01 自然豊かな環境

根川湿地と呼ばれる湿地が残っていたり、多くの遺跡が残っている土地など歴史を感じるられる場所もある。佐鳴湖には約 90 種を超える魚が生息している。四季折々の豊かな自然の中で、野鳥を観察することもでき、今後より一層地域の人々に愛される公園を目指すことが出来る。

02 歩けるまち

佐鳴湖をぐるりと一周囲むように作られた公園で、整備された散策路はウォーキングやジョギングコースとしても人気がある。ウォーキングコースと車道は分けられているが、ウォーキングコースは簡易的なもので車道を歩く歩行者が多く、危険な場面が度々見られる。

03 スポーツの繋がり

昔からボート競技の活動が有名。現在でも 5 校の中高生を中心にボートの練習が行われている。県外からの遠征も多く、大会も開かれる。また駅伝大会の会場に使われていたり、多くの人がランニングコースとして利用している。



04 コンセプト

「4 つのまちにまたがる新たな水辺拠点」をコンセプトとし、親水建築の設計提案を行う。娯楽施設や商業施設による人々の賑わいを創出しつつ、一方で親水性のある生活空間を演出する。**時間の流れ**とともに水に親しむことのできる、新たな水辺文化の創出を目指した。更に、佐鳴湖の特徴である周辺の街の文化と自然や木を共存させることにより、佐鳴湖ならではの親水空間を提案する。プログラムの配置を考えるにあたり、水面への近接性と、パブリック性の高さの大きく二点から検討した。敷地の東側には、文化・娯楽系といった**パブリック性**の高く、**多くの水面を利用できる機能**を配置することにする。西側には、**プライベート性**の高い、宿泊・滞在系の機能を配置することとする。

また、それに付随する機能を前面水面に浮遊建築として設置する。さらに大きな軸として中心に**回廊**を挟み込み、人や自転車、自動車など巡るための移動手段を中心にそれを取り巻く。「寄生」「共存」といったようなこれからのまちのあり方を提案したい。さらに「歩ける湖」を実現している佐鳴湖で拠点の建物から派生して場を点在させることで、それぞれ建物同士のネットワークに限らずその周辺のまちとの関係性を深められるような場にしたいと考えている。

03 問題意識

・新興住宅地が約 20 年程経ち、この先少子化になっていくだろうというのが予想できる。

都市部の方では、すでに衰退をたどる住宅街では再生のプログラムが始まっている。時間が経った今、地方都市でも同じようなことが繰り返されようとしている。その前に私が生まれ育った「佐鳴湖」周辺を題材として何かできないのかまちのあり方を再考したい。

そこに行くことが、まちを楽しむことに繋がるようなまちの玄関口となる場所を目指す。

01 自然の孤立・まちの分断

佐鳴湖は、大平台・入野町・佐鳴台・塚町の**4 つのまちにまたがる**湖となっており、周辺を取り囲むまちを見ても様々な特色がある。さらにまちが新興住宅地化したことにより、**自然がボツリと取り残され、孤立**してしまった雰囲気を感じられる。まちの人々の中にはこの敷地を使うことで自然に触れ、人々の繋がりを取り戻してほしい。

02 サードプレイスとしての居場所の衰退

自然を守ってきた分、交流する場所が欠落している。ボートの学生が遠征に來たり練習に励んでいるが、体を休めたり和気あいあいと話せる場所はない。車社会となったこの土地ではほとんどが通学・通勤のために滞留することのない空間となっている。さらに公民館や図書館が近辺に無く、隣町までの移動が必須となる。

疲れて帰ってきたお父さん、学校帰りの学生、公園を散歩するおばあちゃん、待ち合わせ場所でもいい、**フラッと訪れてとどまれる場所**が必要だと考える。

キーワード

- ①**水や雨、光、風**を通す建築。匂いや風を運ぶ。外や自然の匂い。
- ②今このまちには無い**これからのシーン**（風景・日常）を作成
- ③水際で生えるような身体的な部分に訴えかける建築
- ④改修内容歩ける公園、**巡回出来る公園**の活かし方
- ⑤**時間や目線**によって**体感が変わる建築**

■形態のコンセプト

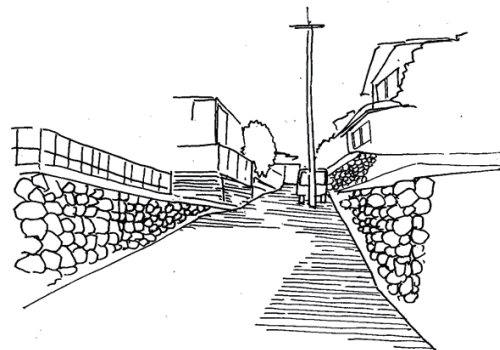
1 循環する



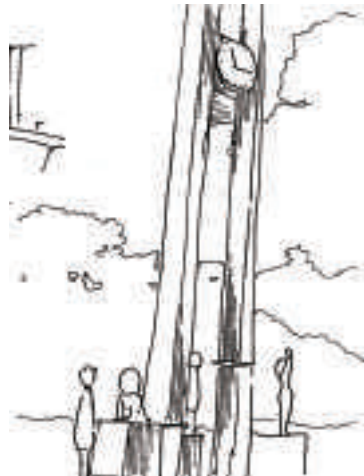
4 連鎖



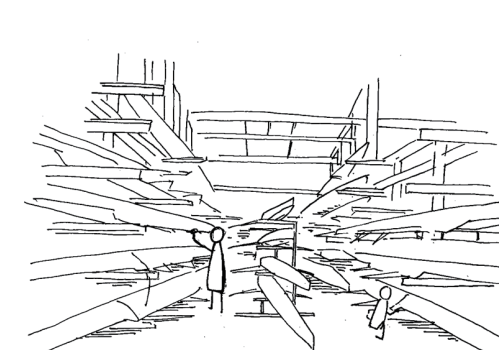
2 遠州のからっ風



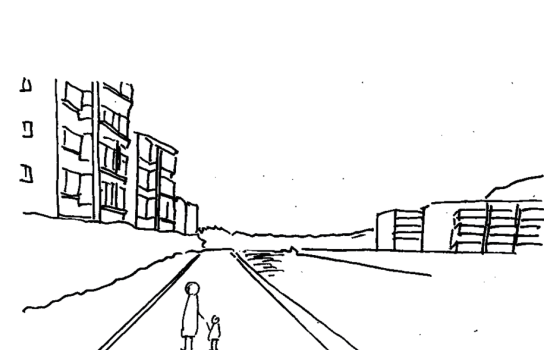
5 帯・たまり場



3 船の空気抵抗



6 歩く



炭焼き小屋
佐鳴湖西岸にある炭焼き小屋とネットワーク。運んで来たり運ばれて来たり。ワークショップも行う。

パン屋
佐鳴湖でつくった炭を使って焼きあげる。香ばしい匂いが漂う

湖の見えるカフェ
このあたりで有名な陶器づくりや木を使った家具など、自分でつくったモノを持ち寄って、料理に出してくれる。

カフェの隣のギャラリー
佐鳴湖で活動しているプロのカメラマン達の写真を展示。佐鳴湖で見られる珍しい鳥の写真。湖に対して軽く傾斜がかかっており、潜っていくような感覚になる。

ホール
湖が開けて見えるホール。佐鳴湖にある、コンクリート固めの屋外ステージに変わる舞台。連携も取りながら、琴の演奏や地元の学校の発表会などにも使われる。

共有キッチン
中に釣り堀がある。地元の人が自由に使えるキッチンとなっているが、地元でとれた野菜を直売所で販売している時には利用者が増える。釣った魚も調理して食べられる。

銭湯
仕事帰りの人や、運動で汗を流した人達が集まる。佐鳴湖の水面が目線に被り、開放感のある空間に囲まれる。

- 栈橋
- 水・健康
- 人々の暮らし
- 回廊

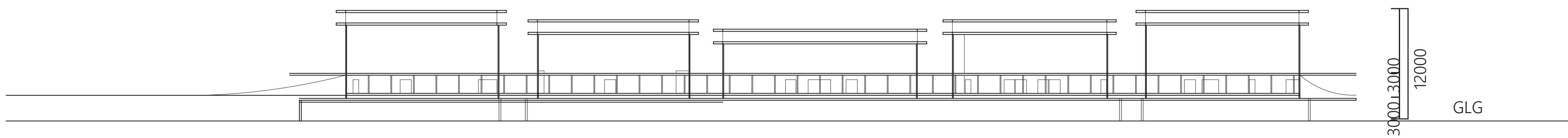
A エリア 1 階平面図 S=1/250

湖面のカーブ状をかたどっており、水辺から住宅概までの高低差を利用しながらたっている。湖面上から浮き栈橋が伸びており、それに付随するように建築が伸び、床レベルが、±0、+1100、+2500、というように少しずつ上がっている。
。登ったり下りたりが可能な中で、**全身**を使った動きや、**棟と棟の間に**設けられたギャラリー空間は水の中に潜っていくような体感になる。また、潮の満ち引きに寄って湖面に近い部分は体感が変わるように計画した。

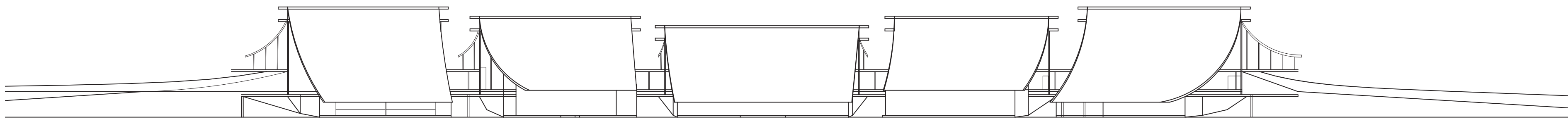
既存の艇庫と森の小道を結ぶ
全長約 400mの回廊
人はもちろん自動車も途中から合流出来る道に繋がっている。

まちやどの宿泊棟
ご飯をやアクティビティは外へ。
お風呂は内設の銭湯へ。レンタサイクルをして回廊を抜けてまちへ。

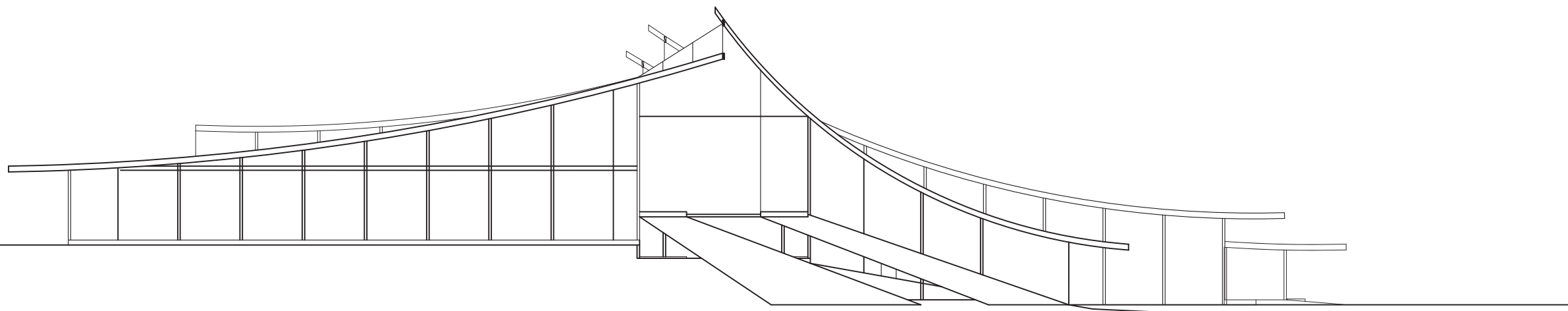
キャンプ
地元のアウトドア好きが集まる。
週末にふらりと立ちよることが出来る。



断面図 S=1/500



東側立面図 S=1/500



南側立面図 S=1/300

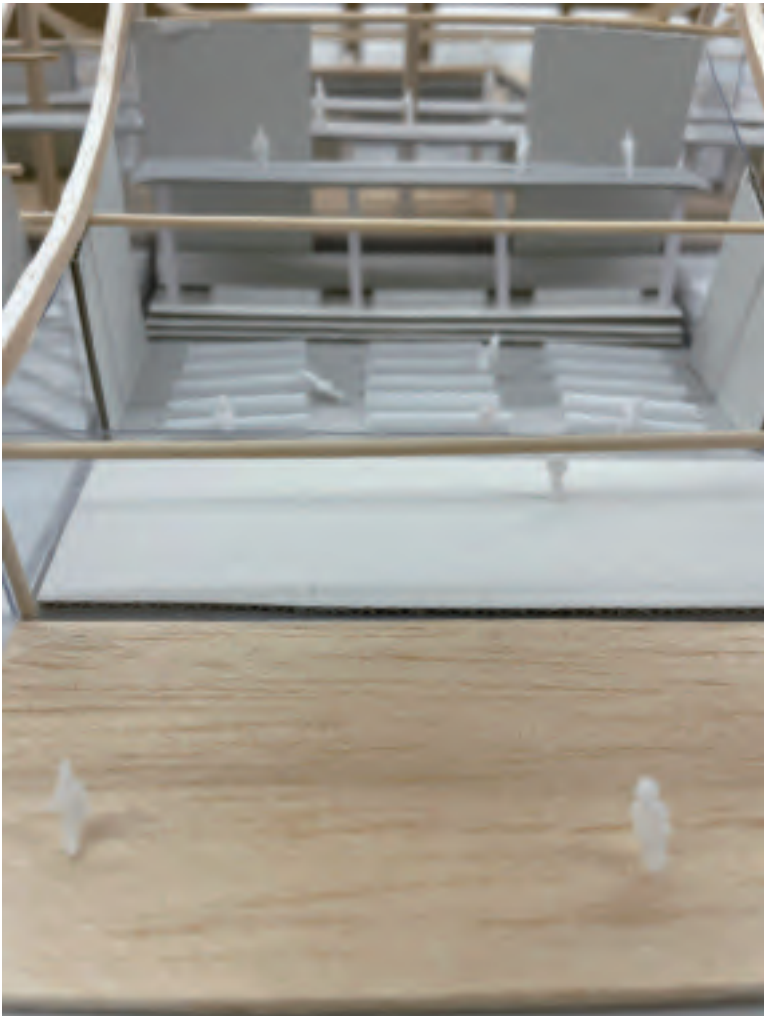
■新しいシーン



○パン屋と炭焼き小屋：佐鳴湖には炭焼きごやがある。佐鳴湖の炭を使って調理が行われる。



○湖とキャンプ：テントの貸し出し、キャンプを楽しむことが出来る。綺麗な景色とアウトドアに興味をもった人達が集う。直売所でその日の食料を買うことも出来る。



○湖の見えるホール：開放的なホール。このあたりではヤマハの音楽スタジオや琴の演奏などが盛ん。今までは屋外のコンクリート固めの屋外舞台しかなかったため、改めて設ける。まちの人達が集う。



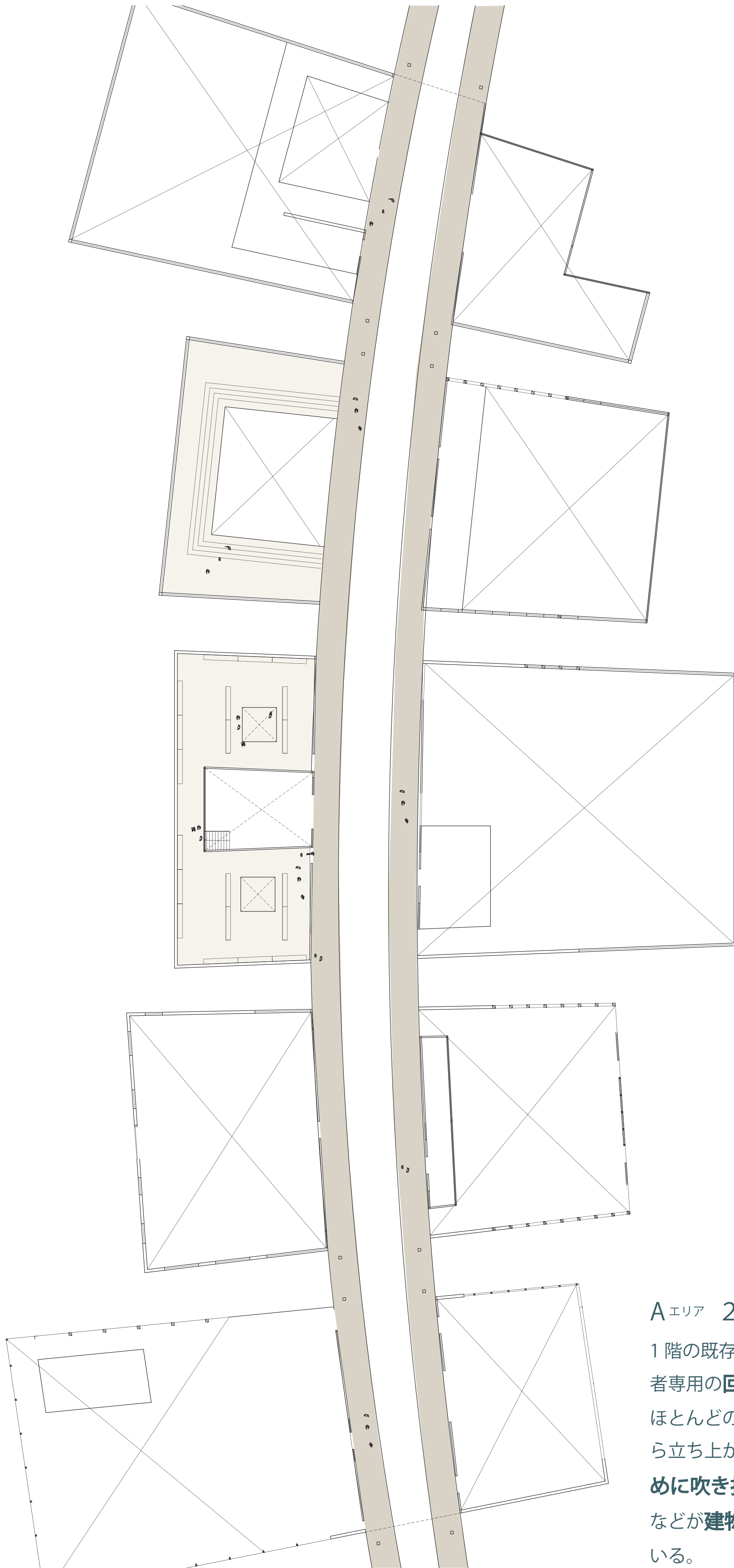
○銭湯：佐鳴湖を拠点に「まちやど」を広げる際に街の中では唯一の銭湯となる。佐鳴湖を拠点にスポーツをやっている人々や通勤族で疲れて帰って来る人々の憩いの場所にもなる。



○カフェ：地元でつくった陶器や家具を持ち寄り、利用することが出来る。このあたりには陶器や手作りの商品売る店が多いため、その人達のための売り手の場所になったり、同じ趣味で集まるための人の場所となる。



○艇庫：既存の艇庫が劣化や艇の増加が加速しているため、増築する。複合施設の中に配置させるため、今までになかった交流が生まれる。また、湖から反り経つ屋根のしたに広がっていることで開放的な空間にある。また、浮き桟橋が複数つらなるため、どの棟からも一時船を横付けすることが出来る。



Aエリア 2階平面図 S=1/300

1階の既存の艇庫から伸びたデッキの上には歩行者専用の回廊が通っている。

ほとんどの室が吹き抜けとなっているが。湖面から立ち上がる、船の骨組みのような屋根からは斜めに吹き抜けがぬける事となり、匂いや風、光などが建物全体に行き渡るような作りとなっている。

■面積表

艇庫	480 m ²
カフェ	252 m ²
ホール	462 m ²
体育館	400 m ²
図書館・コワーキングスペース	420 m ²
共有キッチン	340 m ²
宿泊施設	432 m ²
銭湯	300 m ²

周辺に住む人とまちをまちやど的な町全体を巻き込んだプログラムにするためにリサーチをした。

①湖上の出来事、

②湖周辺の出来事、

③まちの出来事、の3つに分けてリサーチをする。

今回は敷地は湖周辺該当するため、この3点のシーンを繋ぐような風景を検討する。

②は佐鳴湖から半径 100m以内、③は佐鳴湖から半径 500m以内とする。

「佐鳴湖」のまち歩きを通して分かってきたこと、湖の周辺で起きている出来事とまちで起きていること。

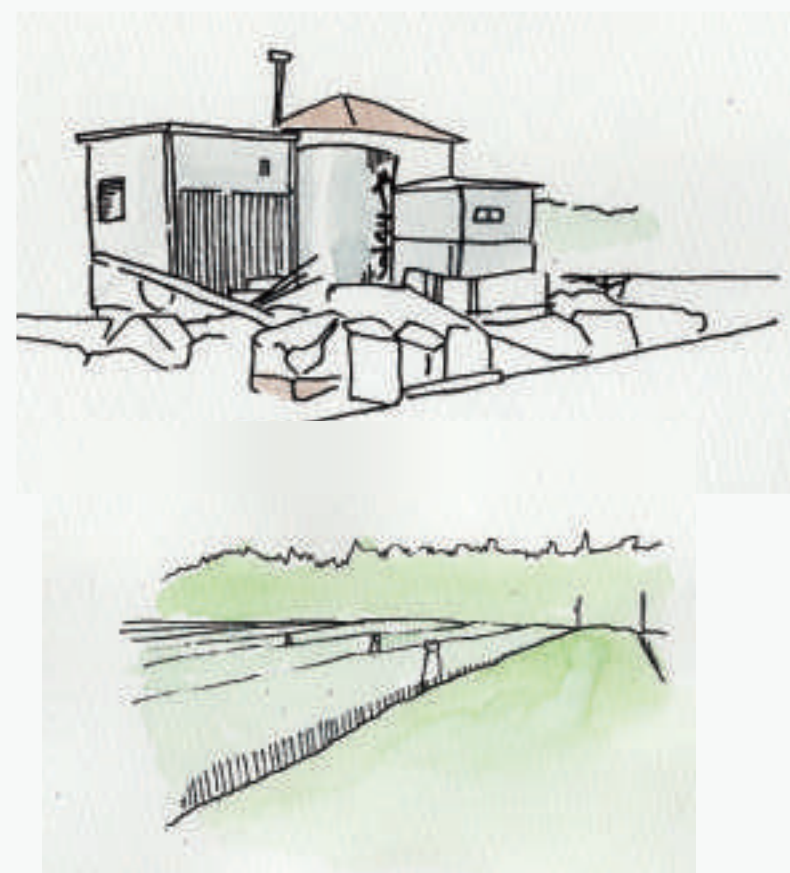
また、「まちやど」に関して、今回考えた施設の一部をレセプションとして捉える事で、まちを周りながらこのまちの生活を楽しむ事が出来るようなプログラムを目指していこうと考えている。まちが元々もっているポテンシャルを知り、活用していくことで、まちの内側から盛り上がる仕組みに。



①湖が見える陶芸教室



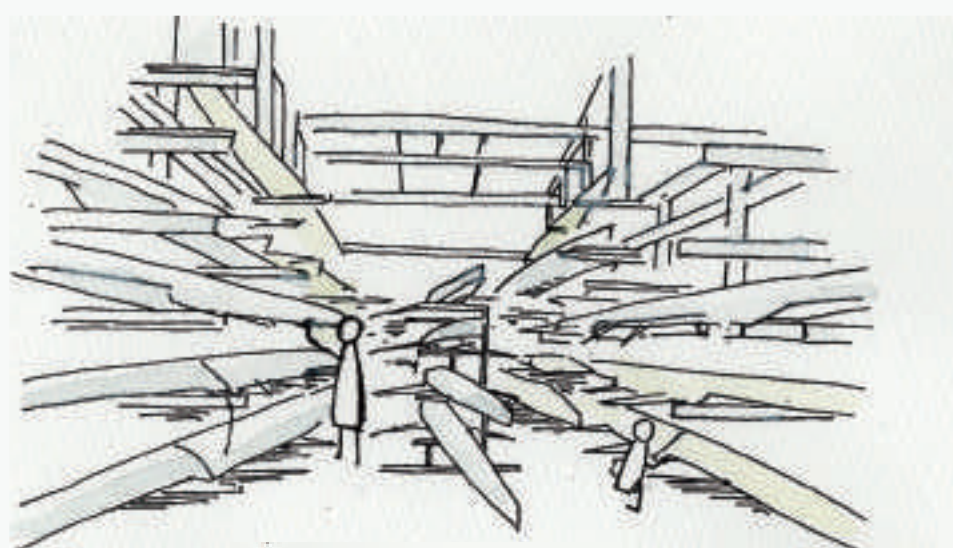
②ひっそりと炭焼き小屋



③住宅地に潜むお茶農家



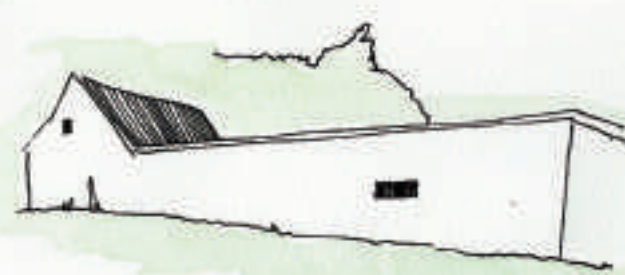
④現寸大の飛行機と写真が取れる喫茶店



⑤溢れ出た船



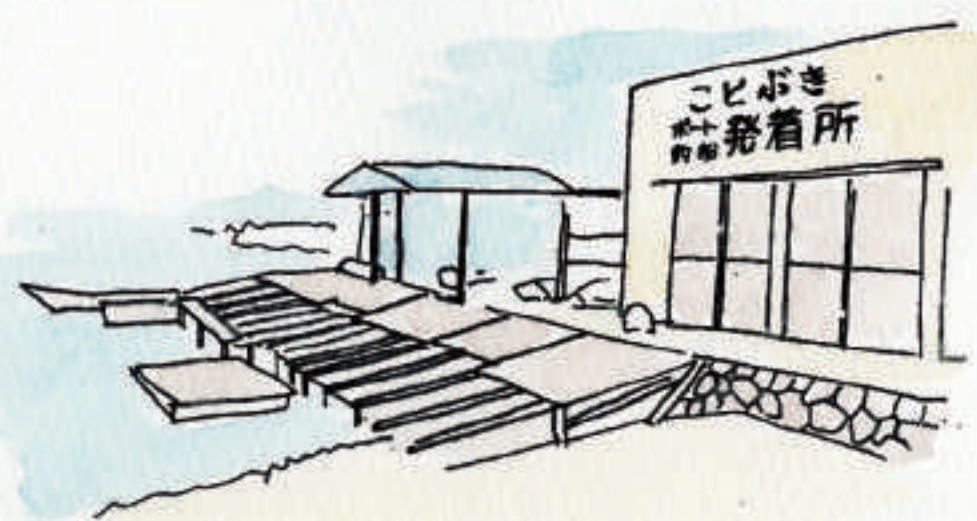
⑥佐鳴湖を見渡せる結婚式場



⑦佐鳴湖近隣にあった変わった家



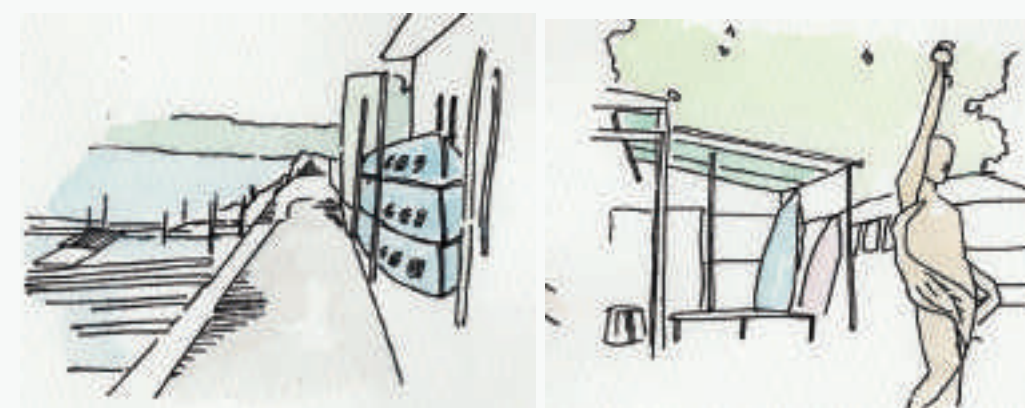
⑧浜松祭りの拠点



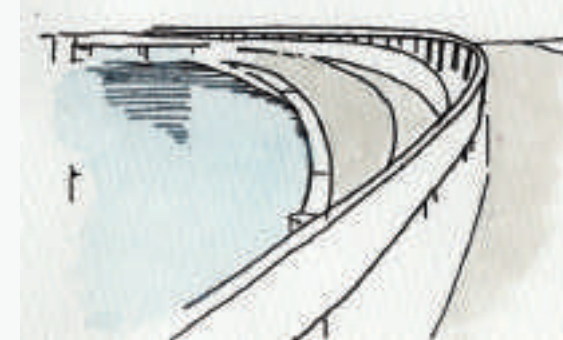
⑩寂れた船乗り場



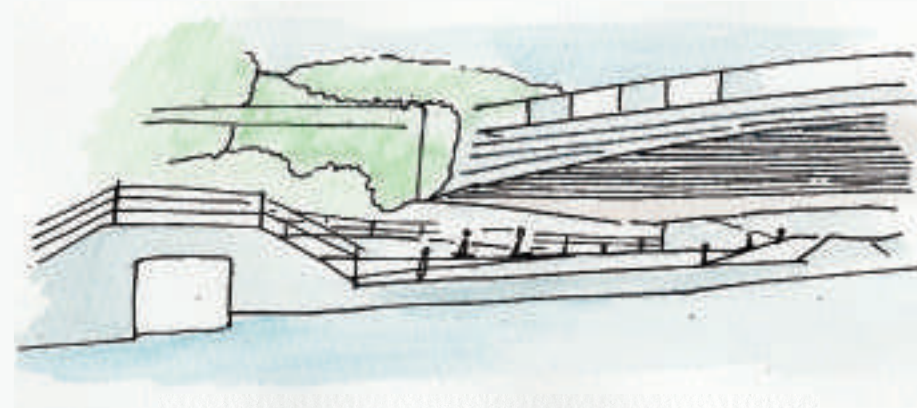
⑪中学生の登下校路



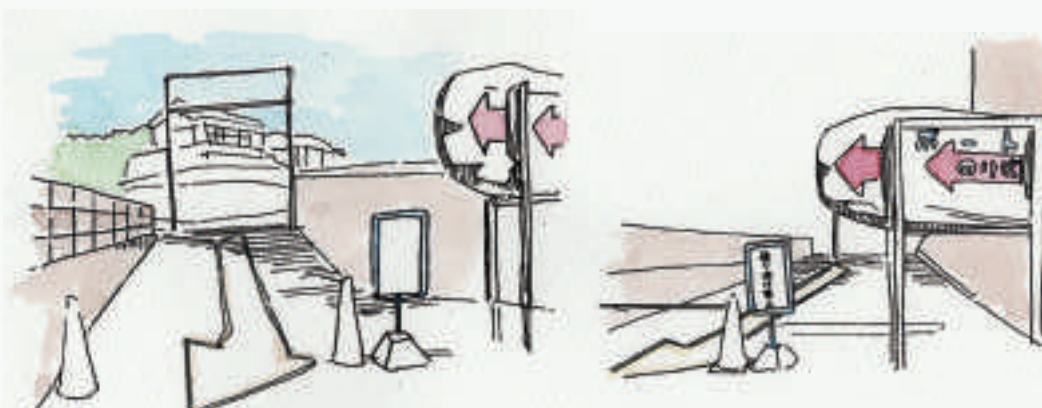
⑫住宅地をぬける佐鳴湖マラソンコース



⑬水の遊び場



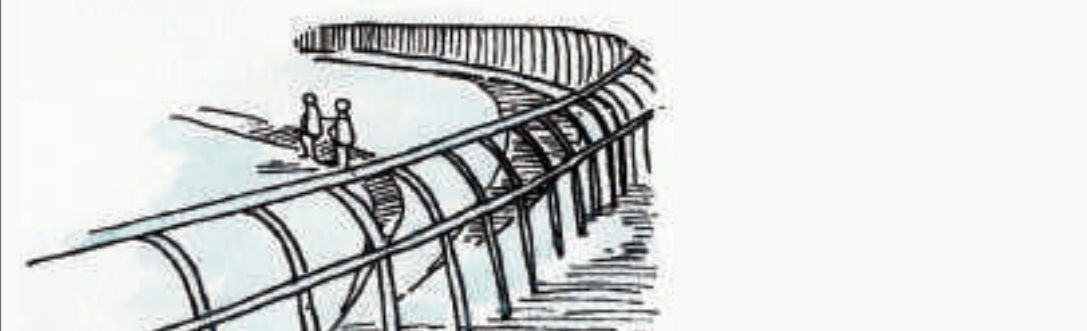
⑭私たちが知る秘密の道



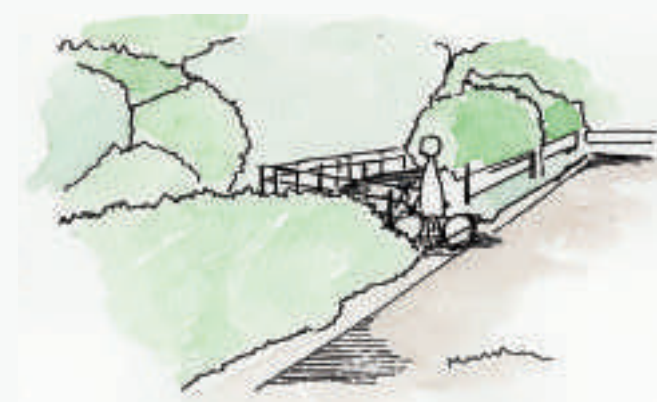
⑮入れなくなったボート乗り場



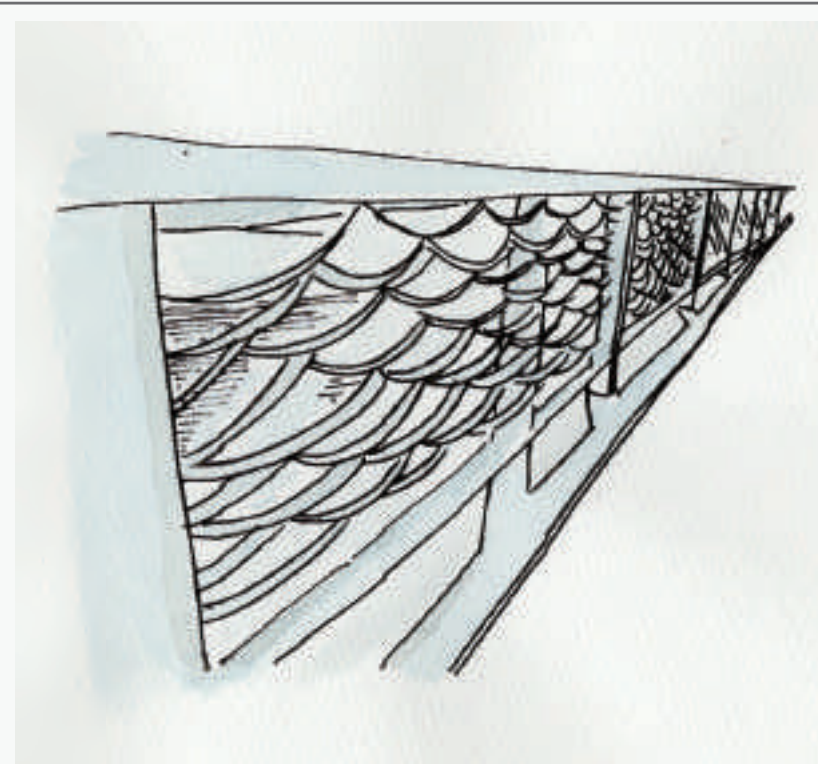
⑯寂れた船乗り場



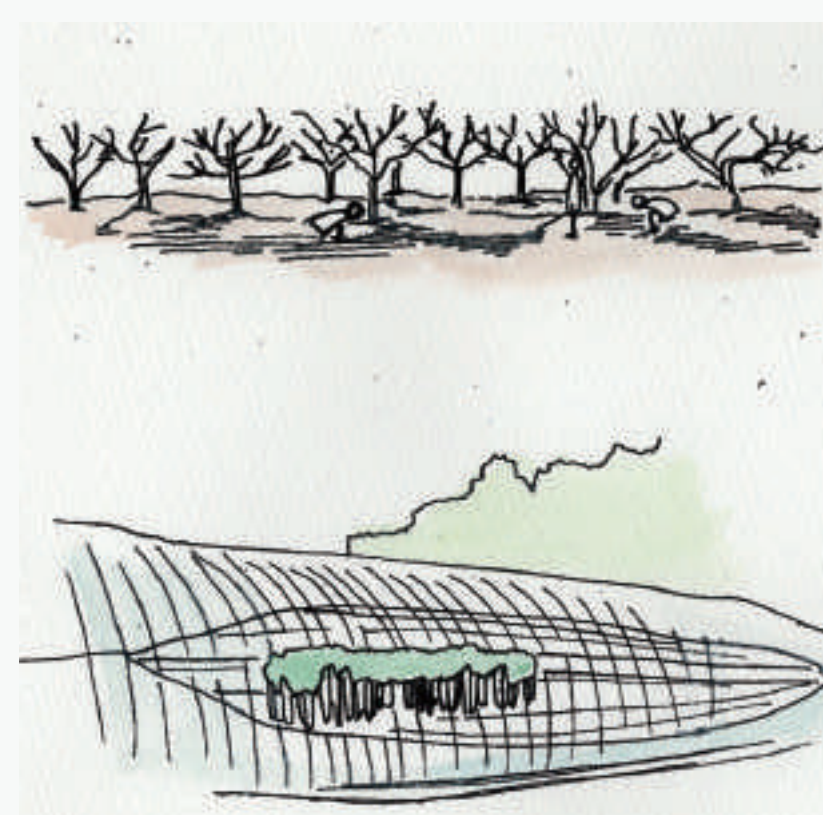
⑰佐鳴湖の景色を見渡す



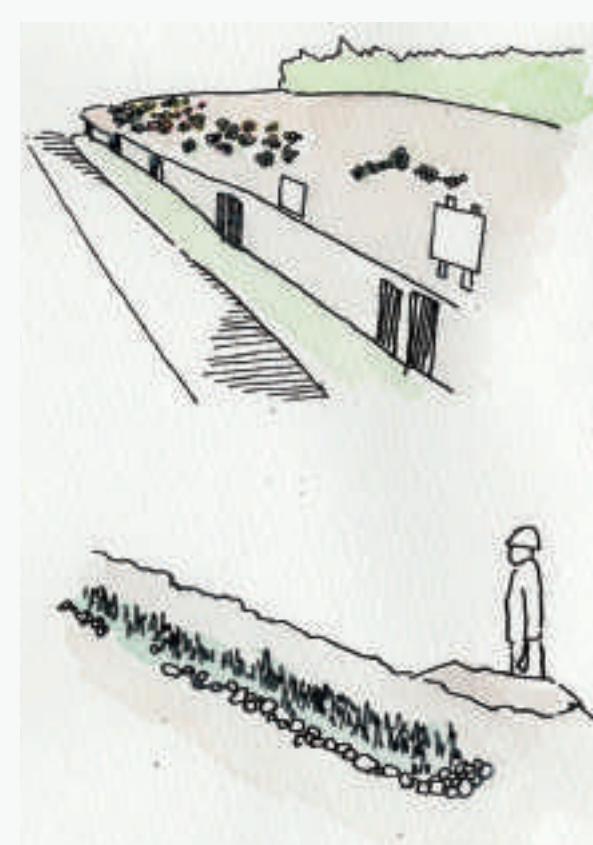
⑱自然への入り口

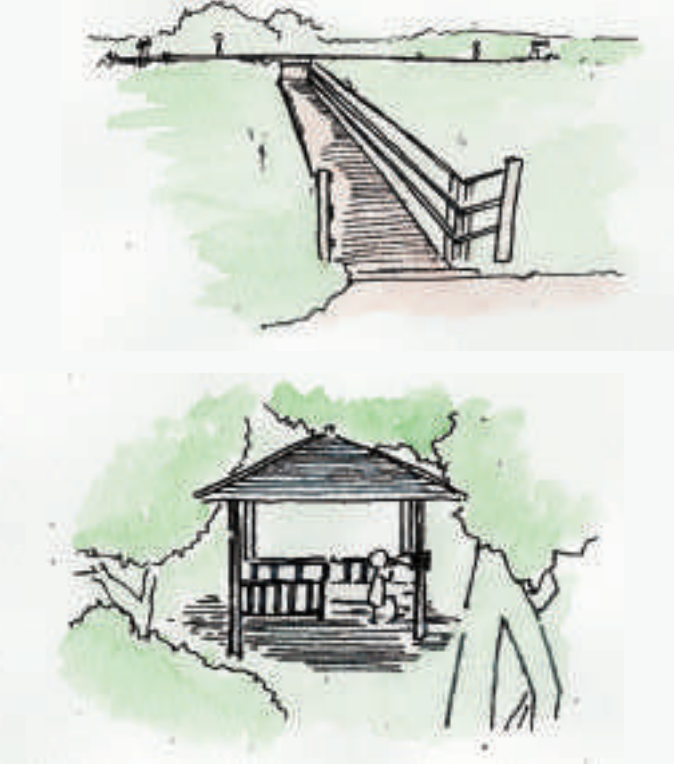
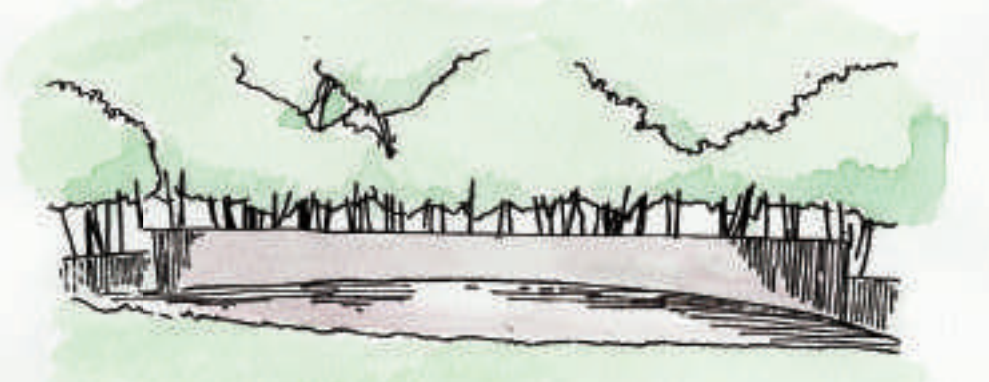
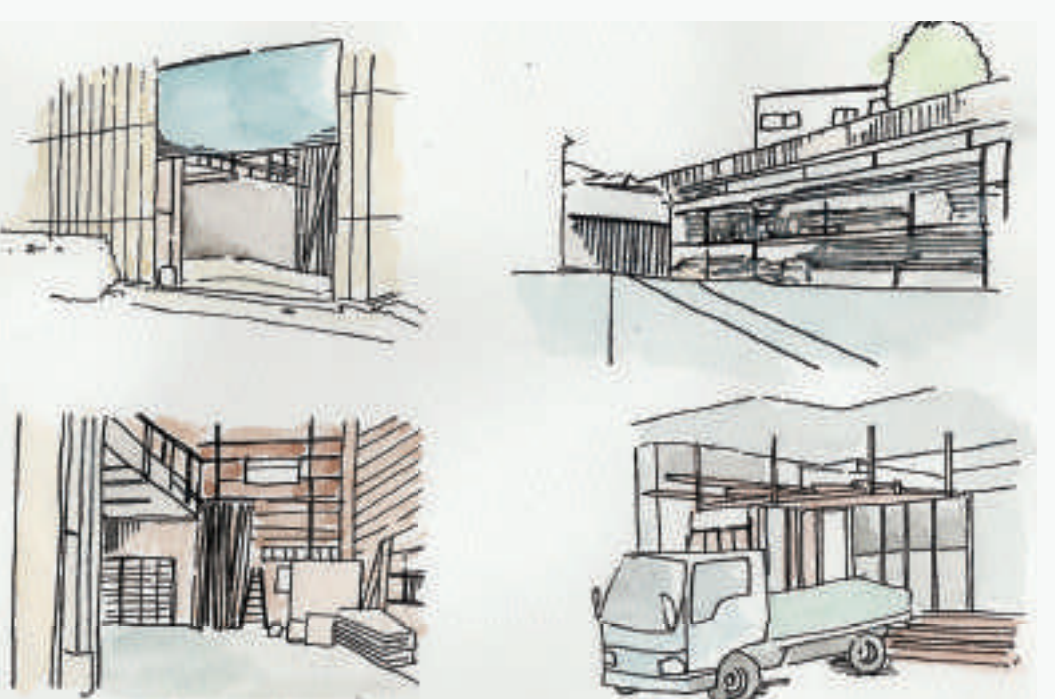
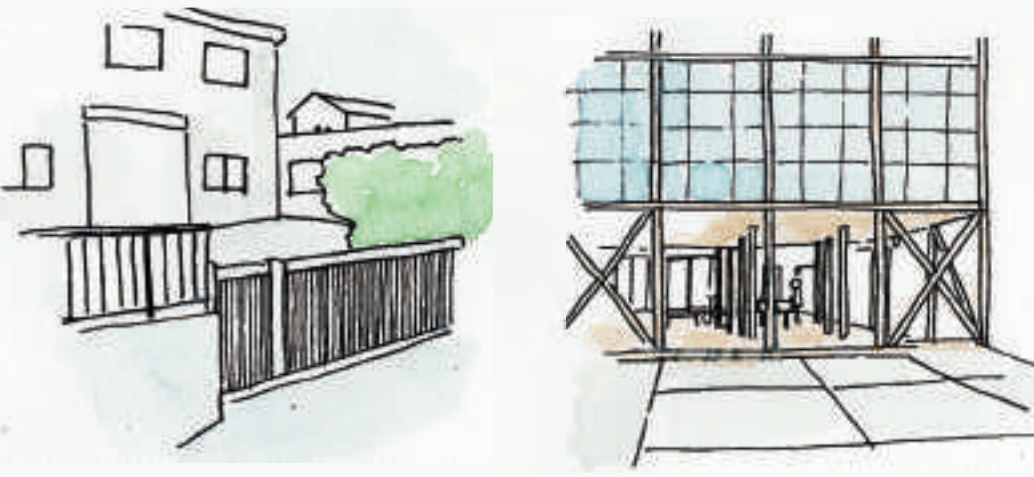
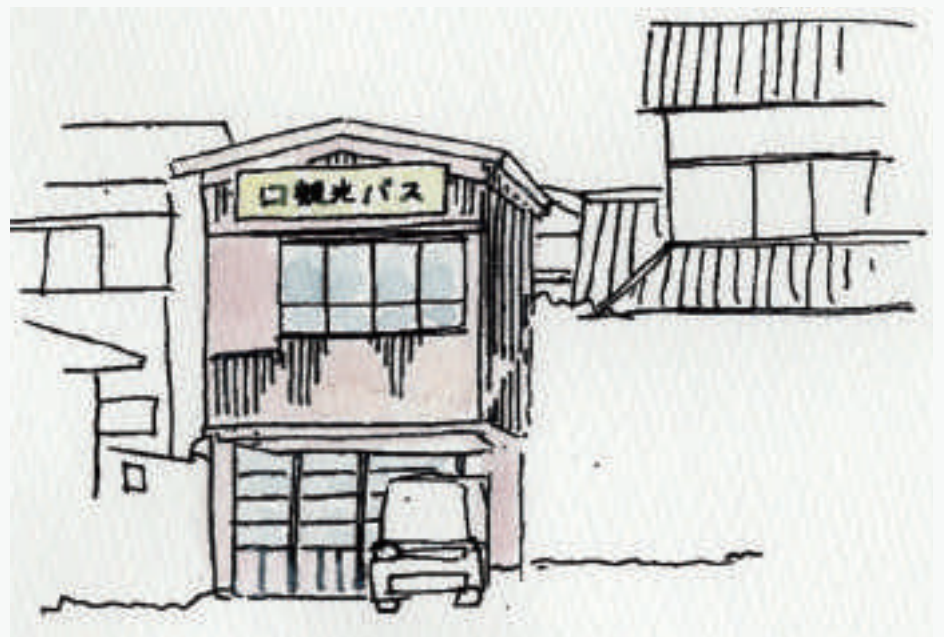
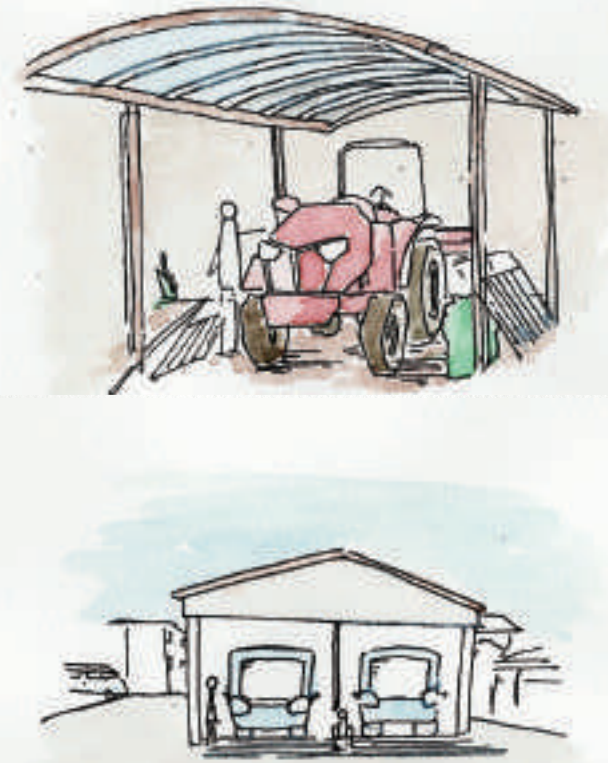
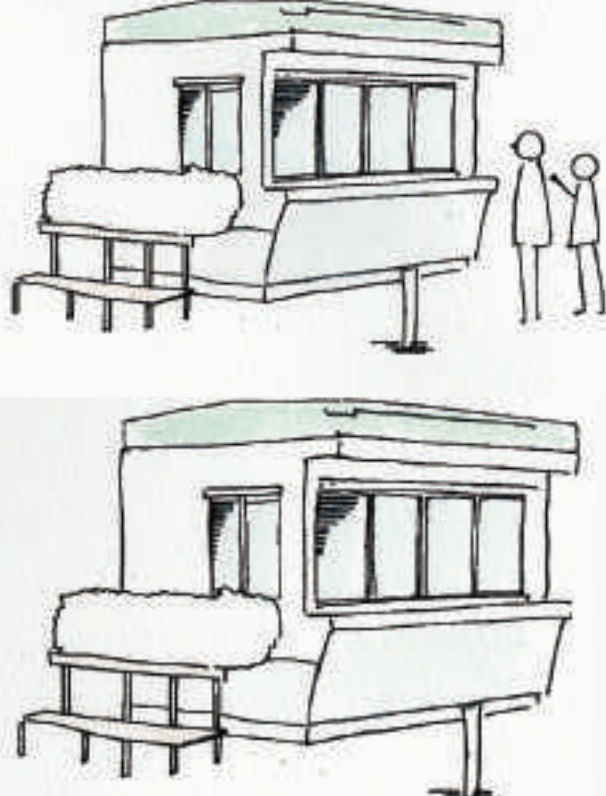


⑲波模様の橋



⑳住宅地にある色々な畑



 ②①地産地消	 ②寂れた遊び場・たまり場	 ②③トロンボーンの演奏をする人	 ②④本日の集合場所
 ②⑤自然の撮影スポット	 ②⑥季節を感じる佐鳴湖	 ②⑦寂れたステージ	 ②⑧木材加工・集積場
 ②⑨モノ作りが好きな家族が新しい家を建てた。	 ③⑩子供達の活動	 ③⑪まちに溶け込む、使われなくなった観光バス事務所	 ③⑫縁側のある家
 ③⑬人気のお店	 ③⑭匂い漂う地元のパン屋	 ③⑮学生の登下校路	 ③⑯人を乗せる車の住处
 ③⑰子供達の活動	 ③⑱寂れたお店	 ③⑲地産地消の食べ物	 ④⑰整備途中の細い道

■ネットワークを生み出す

これらのリサーチによって得られたシーンをもとに、パターンランゲージ化し、分散された棟のネットワークを繋いでいく。

A エリアではまず「水の循環」に対して4個のコミュニティ。

①艇庫：既存艇庫の老朽化及びび艇の増加のための対策。保存と親しみの継承に繋がる未来の艇庫を創造。 ②カヌー：ボート競技に励む人々を初め、ボートにあまり馴染みのないまちの人々にとっての体験 ③銭湯：佐鳴湖で運動をしてきた人・通勤族のための安らぎ ④釣り（共有キッチン）：自分で取ったものを食べる体験・調理

その他にまちの暮らす人々の生活から抽出する。趣味や仕事をまちの人と交流しながら継承する。まちから拾ってきたものをここで消化する。ここで造ったものをまちで消化するの循環。

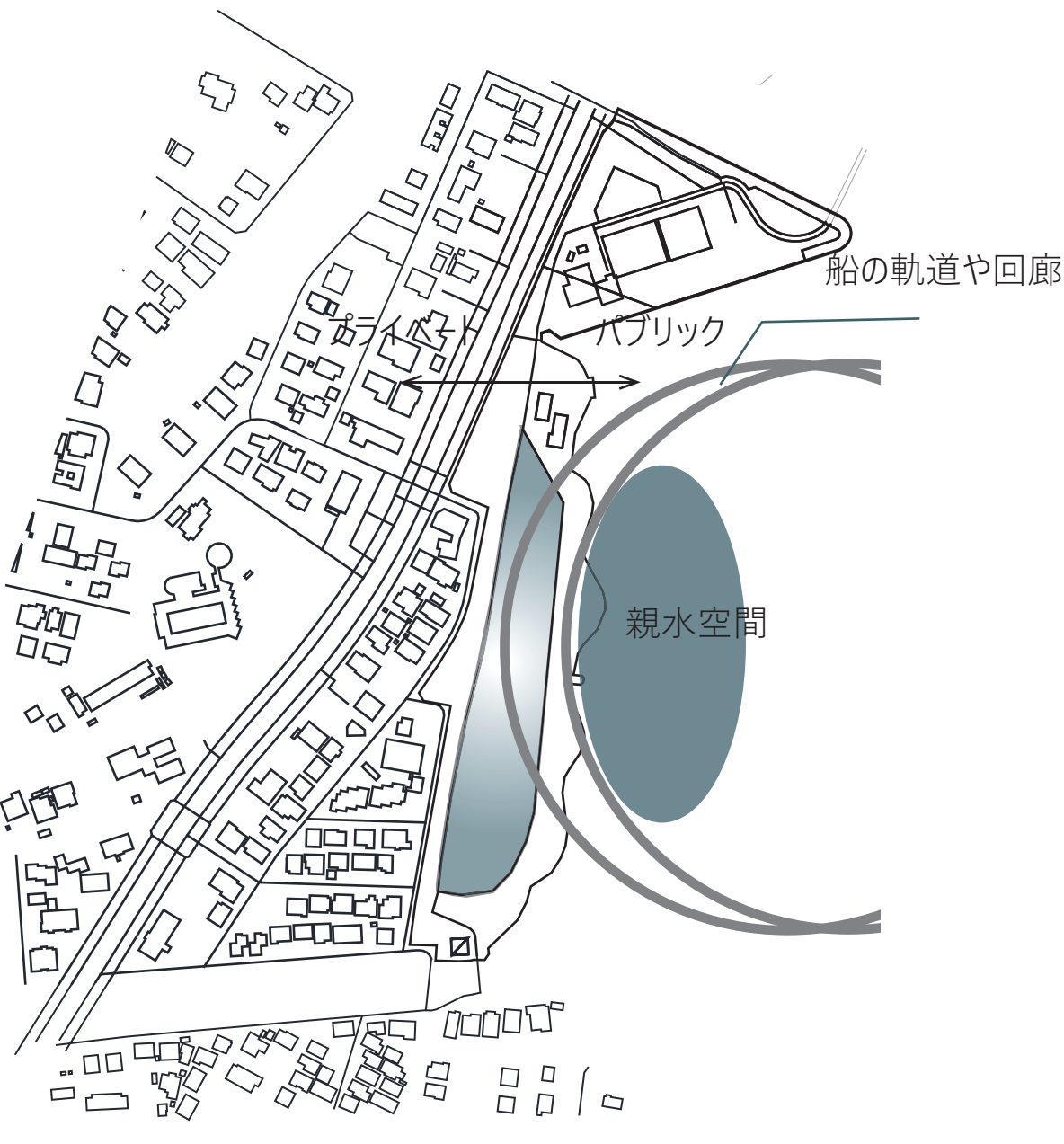
⑤木材加工・ワークショップ→炭焼き小屋や木材工房、切り出された木・土砂崩れ後の木などが点在している様子が確認できた。佐鳴湖で取れた木を使って佐鳴湖に還元できるものを作成。

⑥カフェ（お茶）→地元でとれたお茶を楽しむ。 ⑦ホール（音楽）→ホールとしても展示場としても使える場に。青空コンサート。 ⑧キャンプ場・宿泊施設→まちの人々の休息・楽しみに。キャンプや日曜大工に興味がある人が多い。体を動かしながらリフレッシュ。 ⑨市場（直売所）→農家さんや家庭菜園を楽しむ人々の交流。顔が見える安心。 ⑩陶芸教室ものづくり→南岸に陶芸教室がある。造った箸や器でご飯を食べる。

01 親水空間、土地形状から

湖の水際特有の中心に向けて孤を描くような軌道にある土地を利用することで、より水に意識が集中されたような場所が出来る。

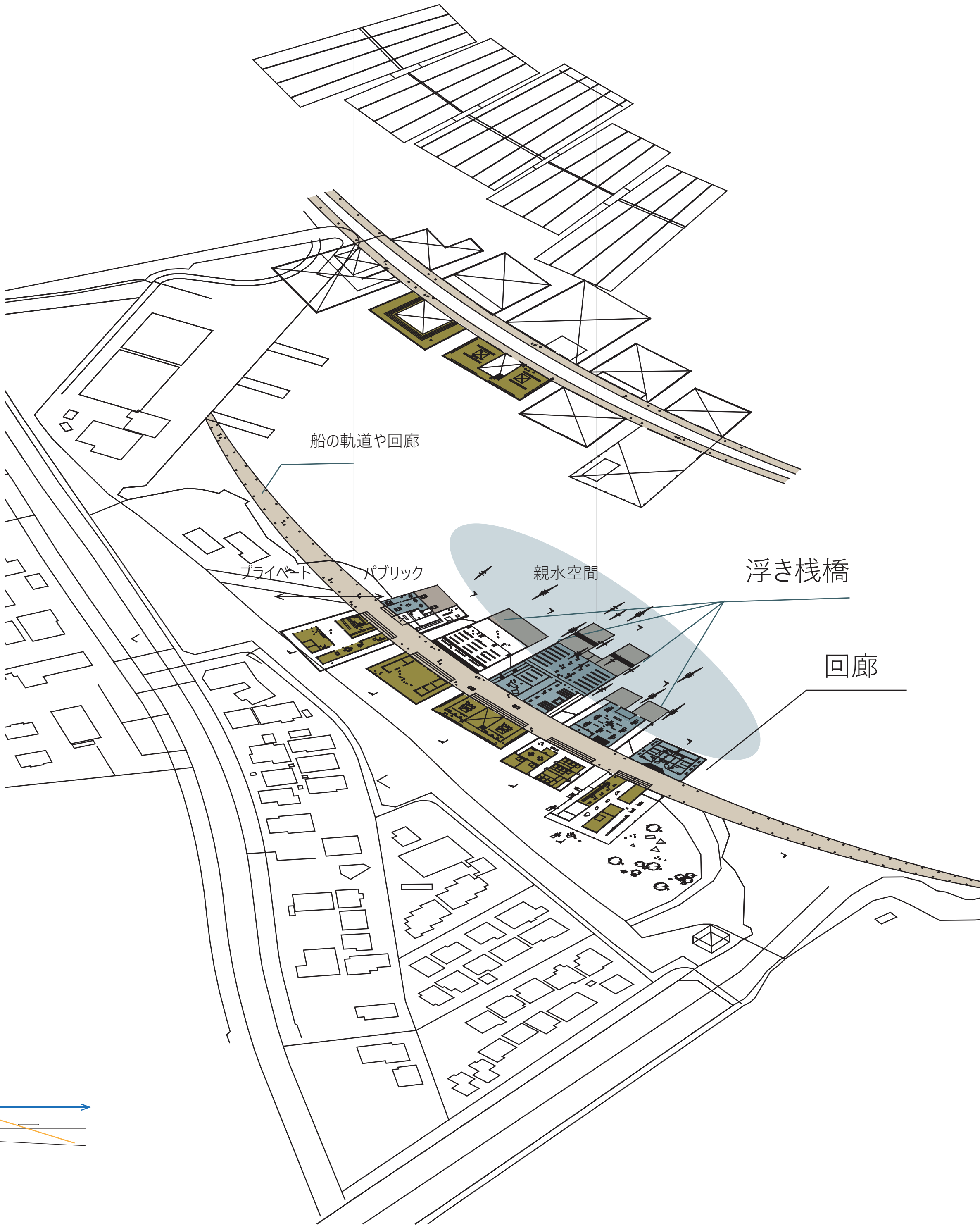
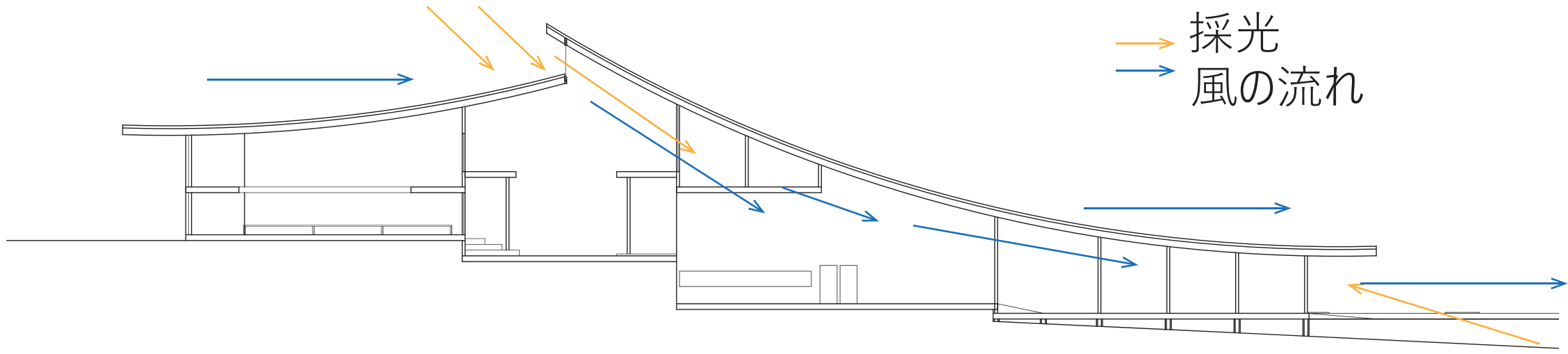
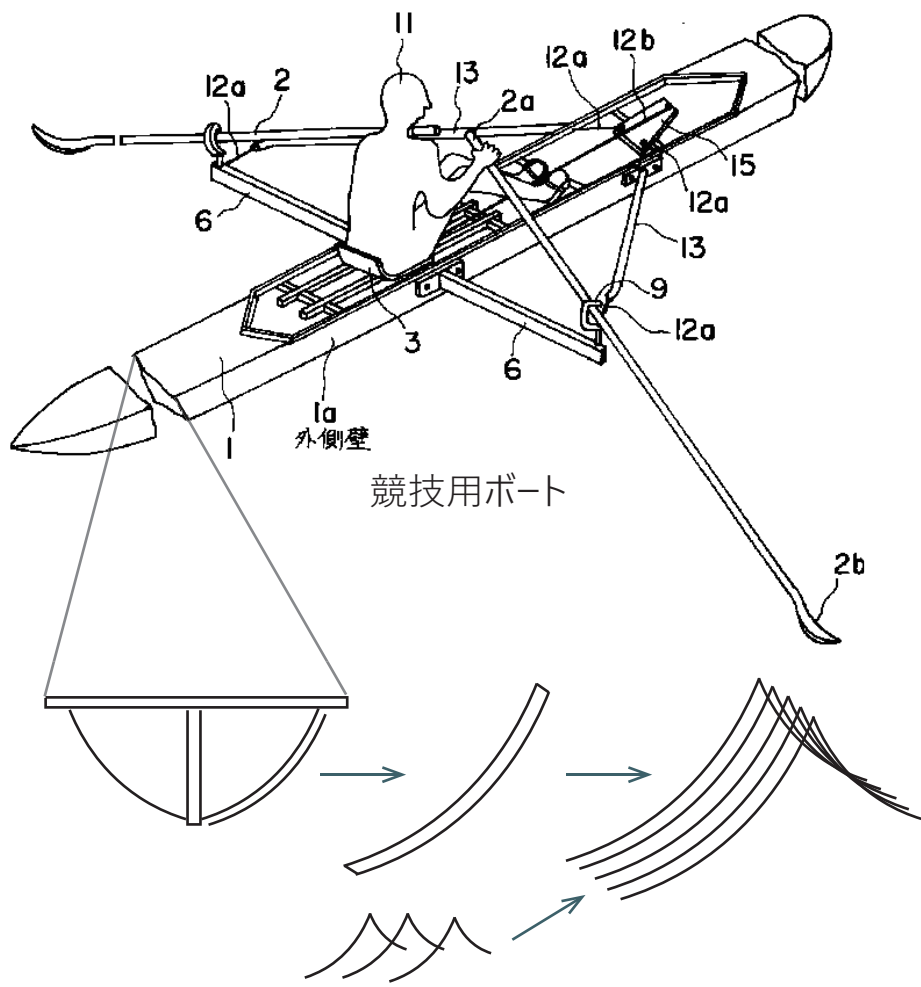
02 水と暮らしのグラデーション



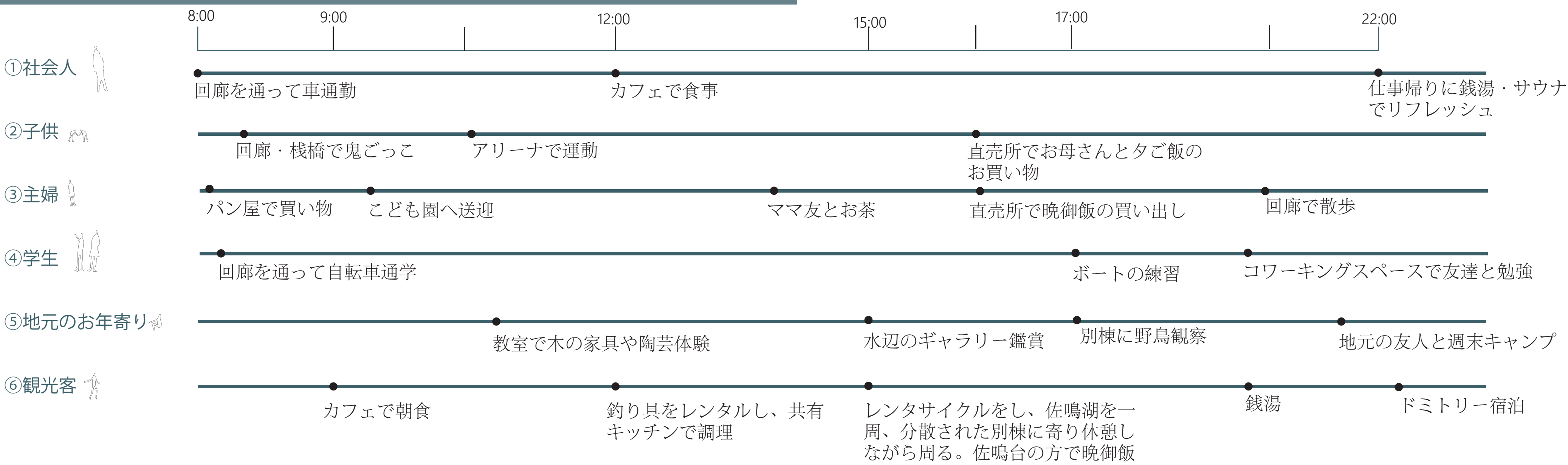
04 屋根形状

競技用のボートに使われる水の抵抗を最小減に抑えた**船底の形状**を模した。また、屋根裏の形状に似ており、吹き抜けが斜めに出来、上下で環境の共有がしやすくなると考えた。人々のサードプレイスの空間になる。

さらに、この屋根の湾曲した形状は湖や海辺などで見られる**波打ち際**をイメージしている。ボートの起こす波のように湖面から台地へ立ち上がるような力強い風景になった。また、光に関して、上部にハイサイドライトを設置し、天井を伝うように光が差し込む。風は町から湖の方向へ抜けていく風の流れがあり、湖中心に抜けていく。船の主軸は1本で繋がっており、要所要所で金具や器具が伸びる。1本の主軸からオールを伸ばすように屋根をかけた。



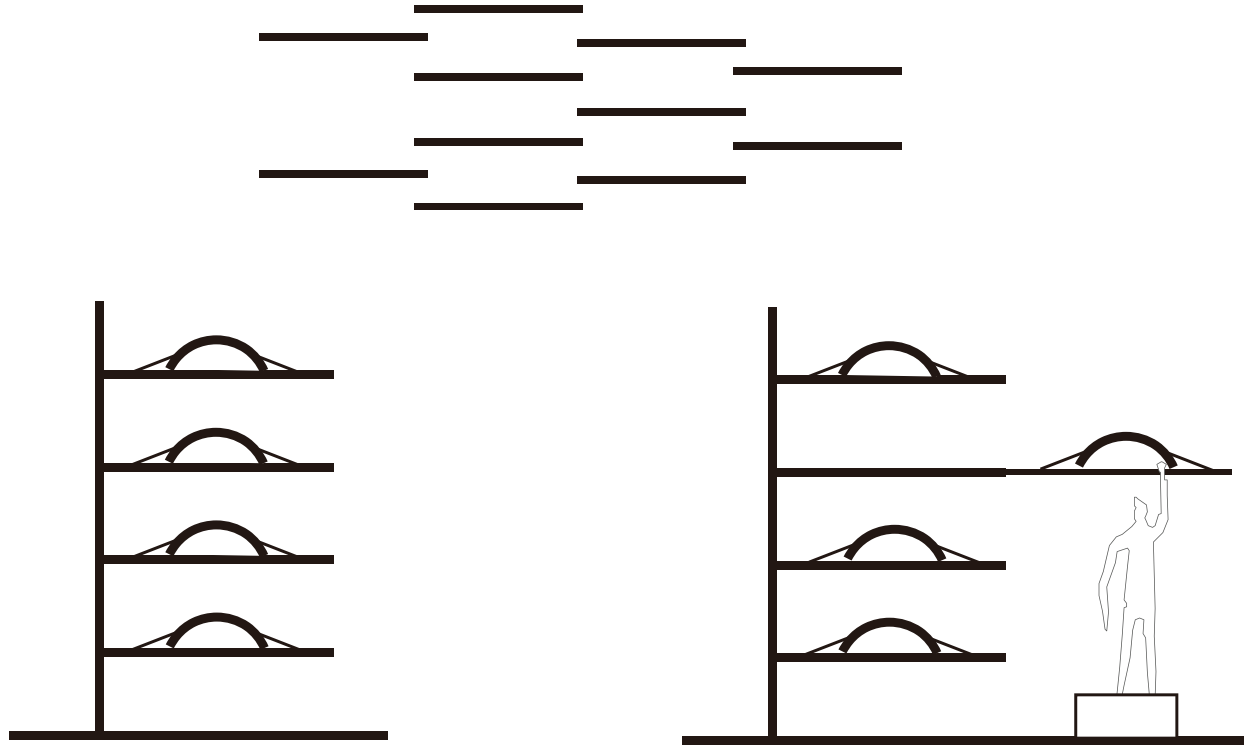
06 利用者の1日 例



1日に一度は利用してもらえるような居場所に。

03 浮き栈橋

潮の満ち引きにより、**高低差が変化**する栈橋。水面にたつて身体的な体感が出来ると考えている。建物を複数連なる栈橋として見せることで自然と一体化したような形になる。また潮の満ち引きの影響をうけて印象の変わる建物になる。



■パターンランゲージ化したものの、配置ネットワーク先

「07 シーンスケッチ」で行った、まちの暮らしの風景を洗い出した中から、ピックアップして各エリアにコミュニティを設置していく。
佐鳴湖の空き地や駐車場を中心に6ヶ所を選定した。その中で近隣・まちの特色や歴史や文化や生活を利用しながら形にしていく。
湖上のコミュニティと地上のコミュニティで対になるよう目指す。以下エリアとスケッチ内容をまとめたものである。



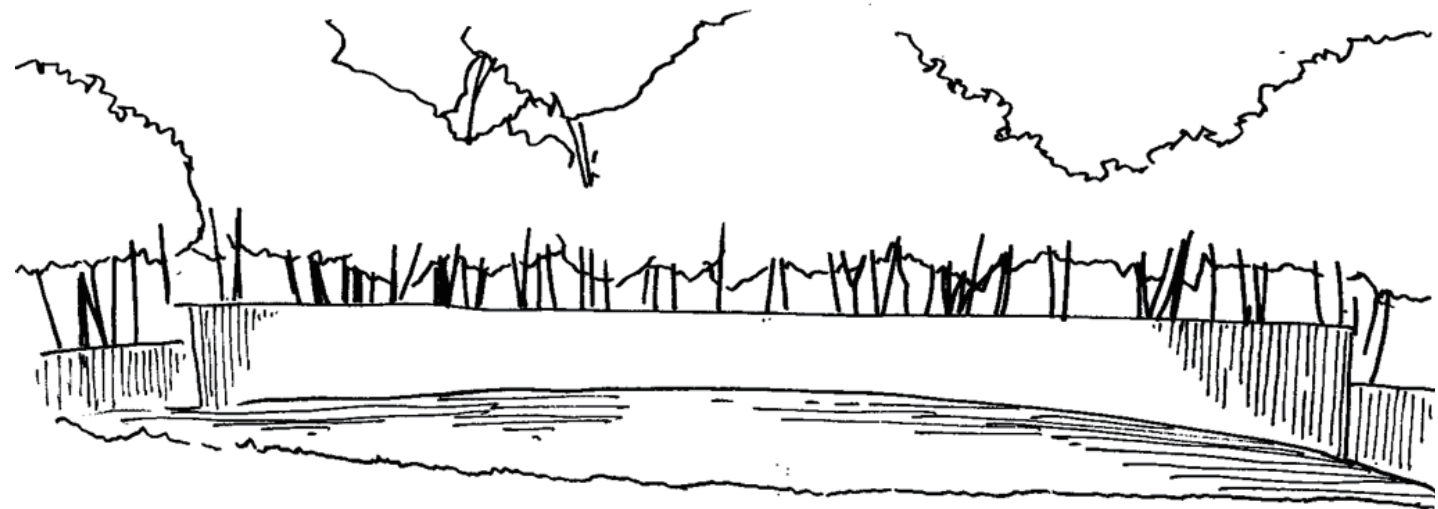
■シーンの収束

①④体験	⑳畑のある家
②木のある場所	㉑㉓地産地消
③住宅と農家	㉒㉓たまり場
⑤活動の拠点	㉔音のある小さな人溜まり
⑥町から見渡す湖	㉕集合場所
⑦門のある入り口	㉖自然の撮影スポット
⑧祭りの拠点	㉗季節を感じる緑
⑩静かな裏通り	㉘移動する木
⑪㉓自然の中の登下校路	㉙二階建ての制限
⑫湖と暮らしの境目	㉚㉛子供の居場所
⑬川沿いと日常	㉜バス停
⑭秘密の道	㉝縁側のある家
⑮⑯船の街	㉞㉟地元で愛される名店
⑰㉗小さな広場	㊱隠れた駐車場
⑱自然への入口	㊲歩行者のための湖
⑲親水サイン計画	(○の数字はシーンスケッチと対応)

その場で完結するのでは無く、歩きを誘発させる、きっかけになるような場所に展開させる。
街にまちの風景を点在させることで辿りながらまちを楽しんでもらいたい。

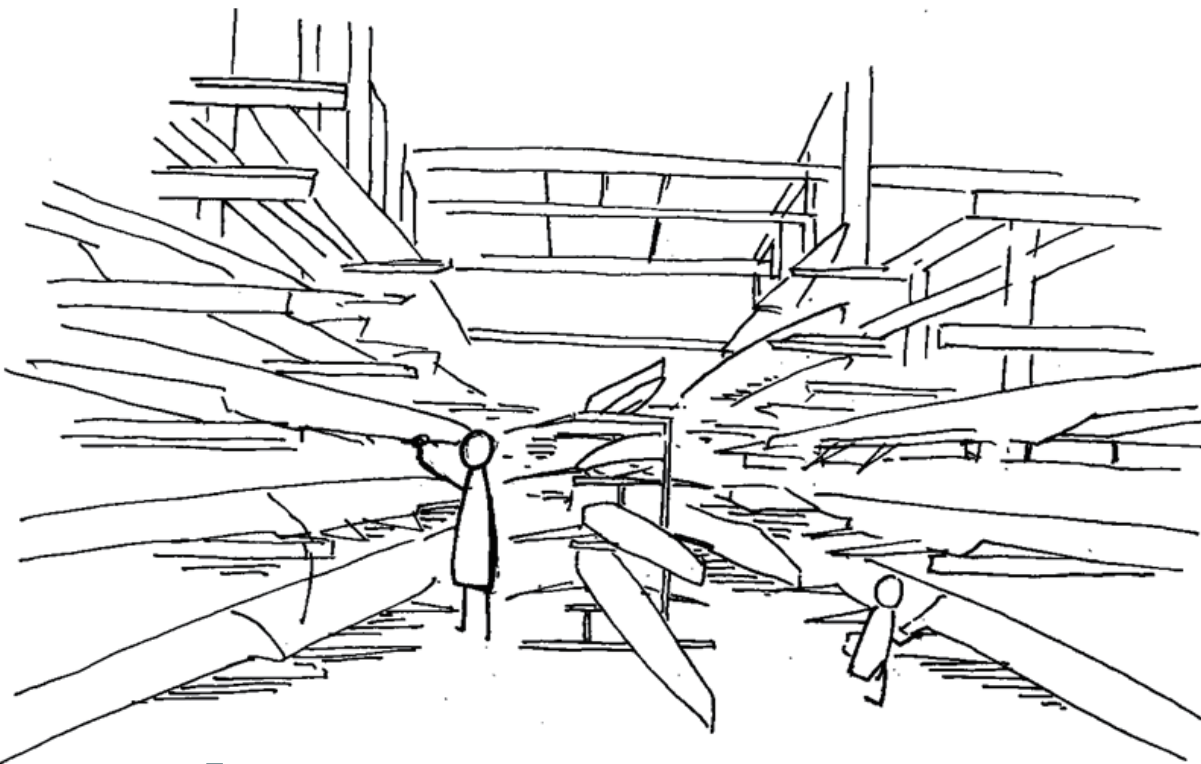
シーン・・・空間

- ①④ ・屋外ステージの利用 / 青空コンサート
- ②㉘ ・佐鳴湖の木材の一次管理場所
- ⑥ ・中央の棟のステージ延長線上の浮き桟橋から目線上に湖の景色を見渡すことが出来る
- ⑧ ・入野町の神輿やお囃子ステージとして利用
- ⑪㉓ ・佐鳴湖の花火大会の観覧席として開放
- ⑰㉗ ・道なりにひいた回廊。自転車通学や車が走る。
- ㉚ ・中央の棟に設置された半屋外のホール
ホールを中央にして半屋外の縁側エリアを設ける
- ㉕ ・佐鳴湖の課外授業拠点



シーン・・・空間

- ①④ ・陶芸教室や炭焼き小屋の体験。Bエリア付近の炭焼き小屋と連携。
- ② ・まちの直売所 / 屋外デッキで軽トラ市
- ③ ・湖を見渡せる艇庫
- ⑧ ・花火大会のメイン会場
- ⑪㉓ ・回廊・高さ4mの歩行者専用回廊
- ⑮⑯ ・浮き桟橋の設置
- ⑲ ・船底の軌道を描いた屋根
- ㉑㉓ ・釣り・共有キッチンの利用
- ㉒㉓ ・親水空間との間の細いギャラリー空間
- ㉔ ・棟の間に庭が見える。
- ㉞㉟ ・地元でとれた食材を使うパン屋
- ㊲㉛ ・半階上がる1mの段差 / ロフト空間 / 歩行者専用の走り回れる回廊



A エリア 佐鳴湖南岸

敷地：北高漕艇場の南側の空き地
艇庫の役割を担いつつ、本プロジェクトの拠点となるエリア。競技用のボート、釣りや貸し出し用のボート店などと湖上で連携。まちに暮らす人々の憩いの場となるような場所

C エリア ひょうたん池付近

敷地：ひょうたん池の近く
東屋の隣が空き地になっている場所に設置する。湖を良く見渡すことが出来るとも開けた場所。ここには、休憩やバードウォッチングなどが出来る東屋や、時計台などがある。根川湿地の付近になり、とても自然が豊かなエリア。

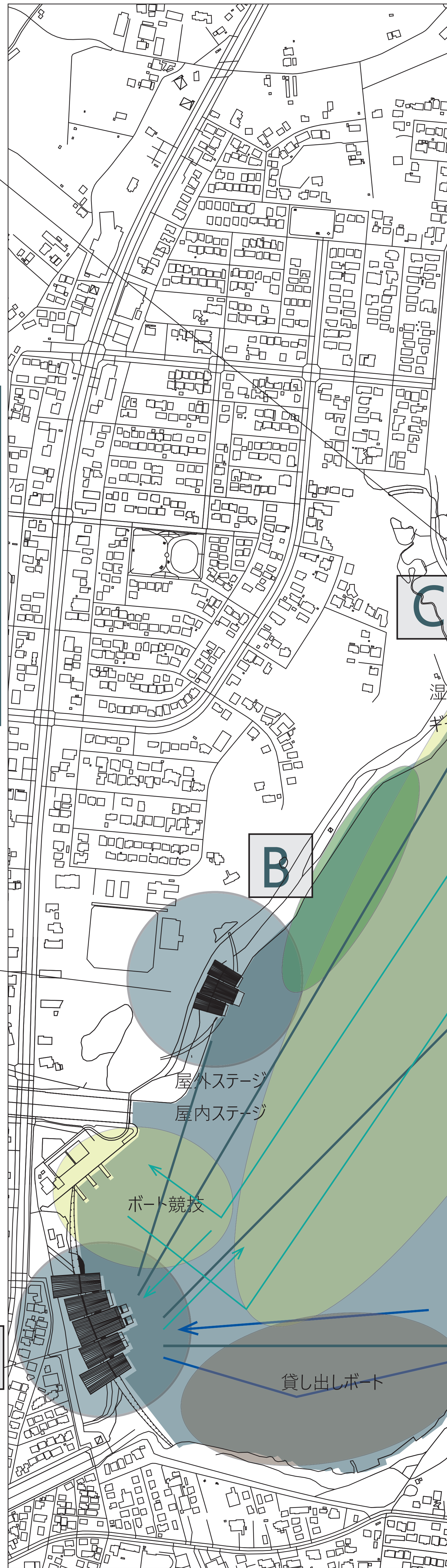
シーン・・・空間

- ③ ・大平台地区のお茶農家提携したカフェ
- ⑪㉓ ・半屋外の回廊
- ⑰㉗ ・時計台や東屋の利用
- ⑱ ・湖に飛び出して行くような軌道を描くデッキ・バードウォッチングによく利用され、湖を一望できるギャラリー空間
- ㉚ ・中央の棟に設置された半屋外のホール

B エリア 屋外ホール

敷地：屋外ステージ
コンクリート固めの屋外ホールがあるがあまり利用はされていない。屋外ステージを中央にまたぐように屋根を掛ける。佐鳴湖南岸に計画するホールと連携をとる。大平台方面から来る人々の憩いの場所になる。

● ポート競技エリア ● 釣りや船アクティビティエリア

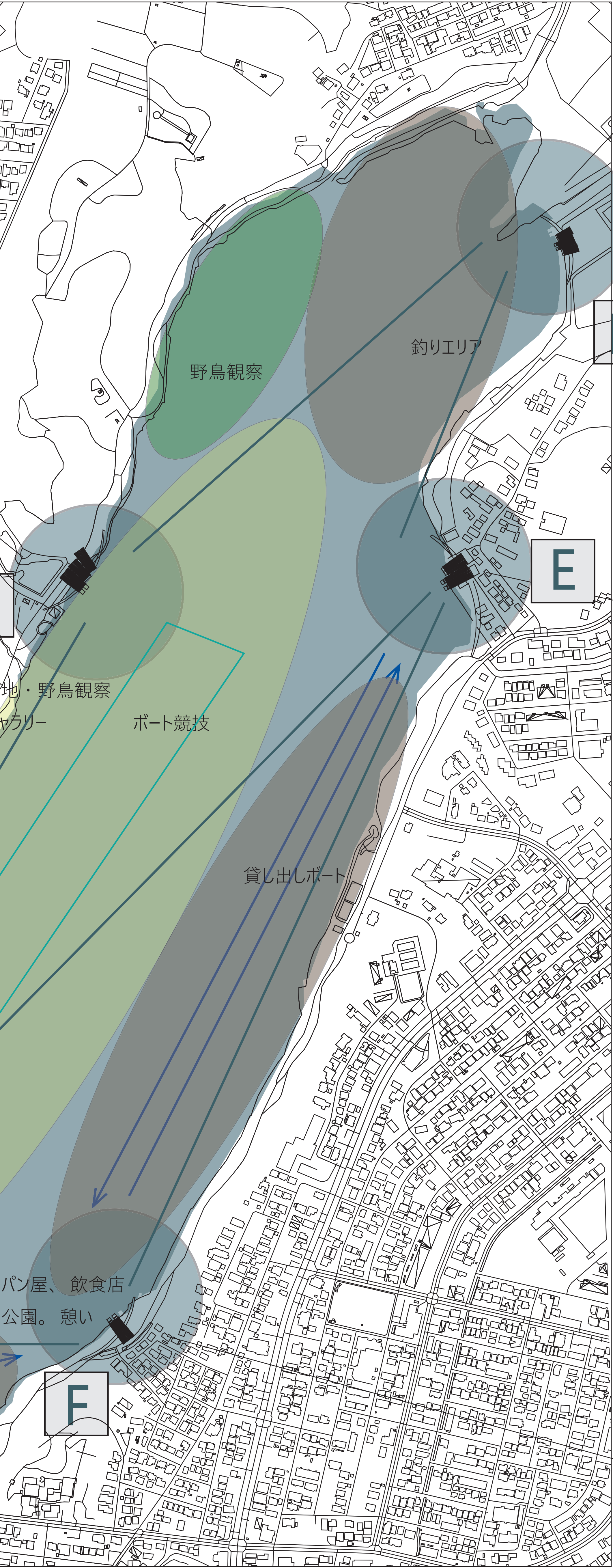


■歩ける湖の活用

佐鳴湖は1周6キロ程で周ることが出来る。道路が整備されており、車はもちろん、歩行者も歩きやすい場所となっている。そこでこの道をより盛り上げ、まちの中心の役割りを担いつつ、この街へ初めてきた人たちにとって、「まちやど」的な、まちぐるみで楽しむ事が出来る場所になるように計画する。

「まちやど」の拠点となるのは今回、佐鳴湖南岸に計画したハブの建築となる。デッキを用いた半屋外空間の建物を道に沿うように設置することで歩行者の利用を考えつつ、まちぐるみのイベントや佐鳴湖での大型イベントなどの活用もしていく。

野鳥観察 / 散策



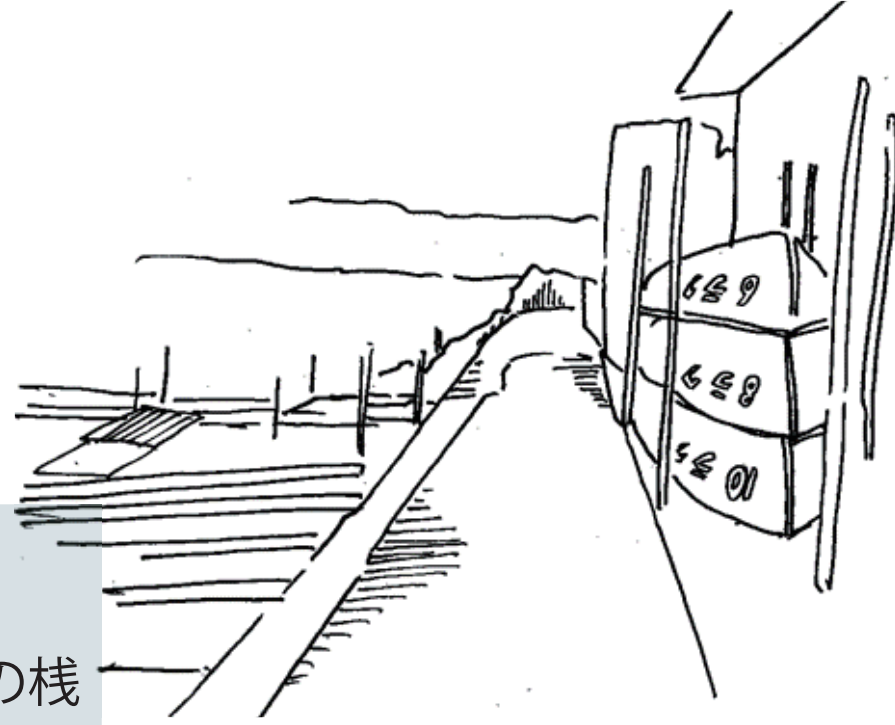
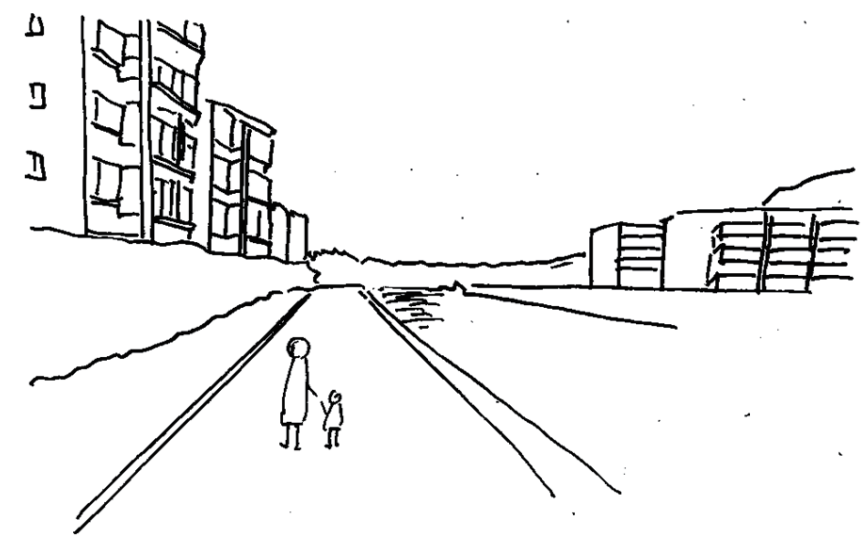
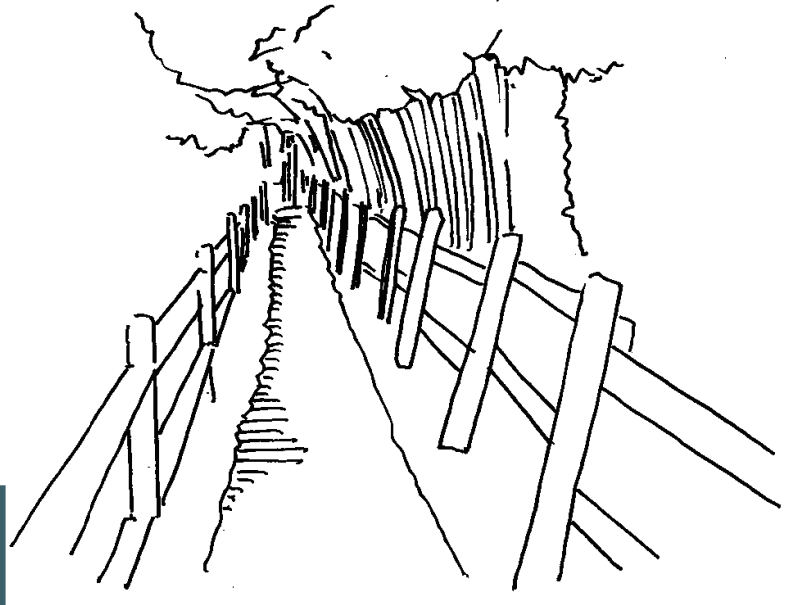
全体配置図

D エリア 佐鳴湖北岸公園付近

敷地：佐鳴湖の北管理棟のすぐ近く。
湿地や特に綺麗な水が湧き出ており、デッキテラスが整備されているため、多くの人が利用しているエリア。釣りや野鳥観察の人々で賑わう。

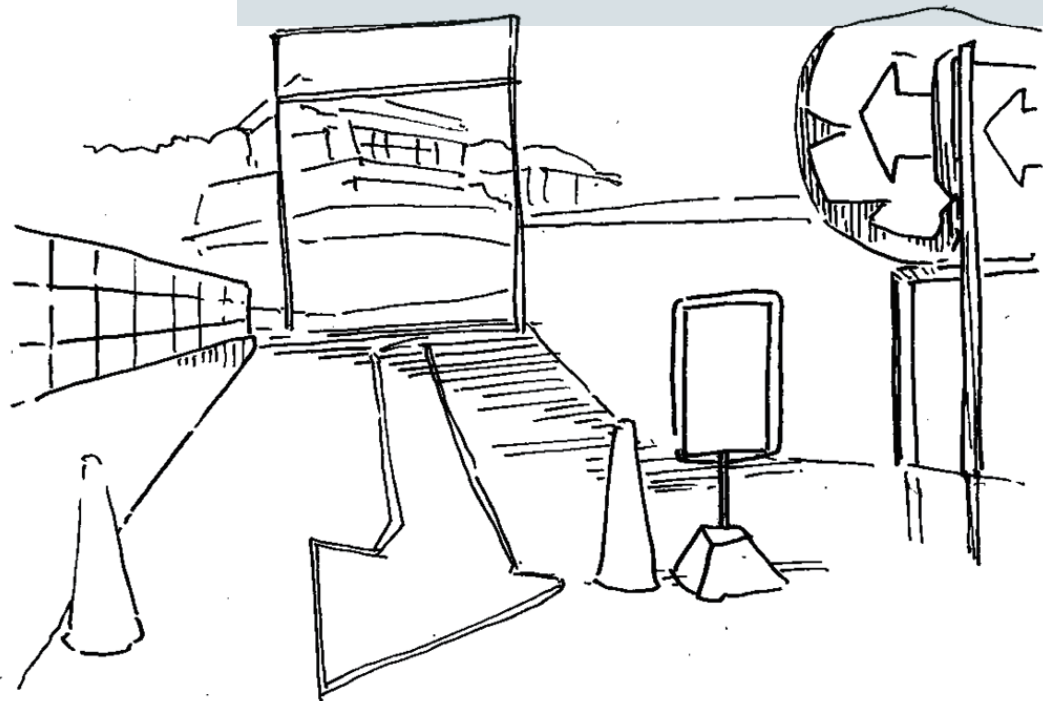
シーン・・・空間

- ⑤ ・佐鳴湖の北管理棟との連携 / 少し
- ⑥ 湖のくぼんだ所にあり、回廊で道と道が繋がる。
- ⑩ ・メインの回廊と別で陸側に歩行者専用の道が繋がっている。暮らしから派生した、横丁的なイメージ
- ⑪③⑤ ・富塚中学や中区方面の高校生が抜け道代わりに利用
- ②④ ・公園のような屋根だけ伸びた半屋外エリア
- ②⑤ ・浮き桟橋から眺める野鳥観察



E エリア 造船「ラクエン」増築

敷地：ボートの貸し出し場の「ラクエン」に今ある道を主軸として増築。佐鳴湖対岸の桟橋と連携を取ること船の利用を加速させる。また、まちの人々の足となる。

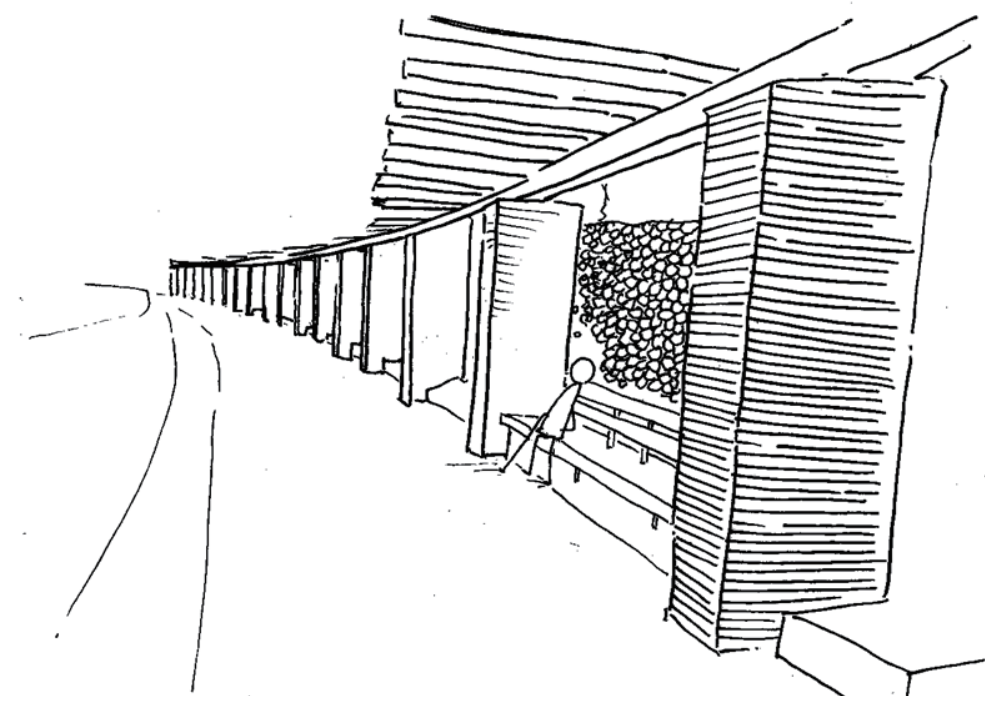


シーン・・・空間

- ⑥ ・佐鳴台の公園が湖に対して弧を描くように付随している。湖に中心置いた円を描き、そわせる
- ⑫ ・佐鳴台のグリ石の彫りを抜けてそのまま坂下がこの建物につながる
- ⑪②⑦ ・屋外デッキはもとの公園とつながるように配置し、子供たちが伸び伸び遊べるようにする
- ⑪⑧ ・デッキを湖に飛び出すように配置する。浮桟橋に入野協同組合の漁船もとまる。
- ②⑥ ・桜並木のすぽとが上部にかかる
- ③⑩③⑦ ・歩行者専用の回廊、吹き抜けを用意。屋根の高さを低めに設定して、屋根裏に潜り込むような空間ができる
- ③② ・外の二頭はうちうちが縁側になっている。そのまま浮桟橋へとつながる

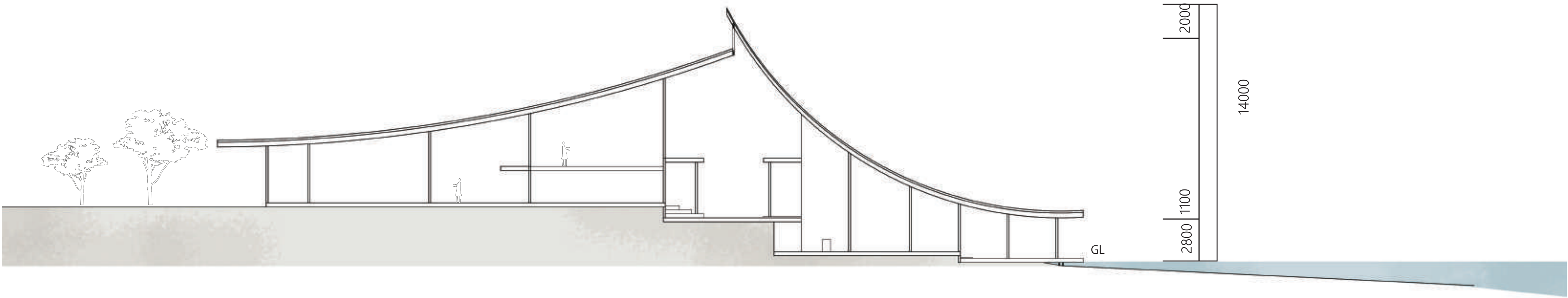
シーン・・・空間

- ①④ ・釣り、船のレンタルエリア A との連携
- ⑥ ・既存船屋は少し他の土地よりも飛び出た場所にあり、佐鳴湖を、グルリと、見渡すことができる
- ⑮⑩⑥ ・数十年前までは船の街としてエリアが出来ていた。船屋部分に屋根を掛けて道を回廊で繋ぎ、一体化させる
- ②⑤ ・既存船屋の2階は屋根裏の屋外デッキになっており、野鳥観察にもってこいの場所
- ③① ・富塚方面のバス停も担う。もともと車が通っていた道を開通させる。

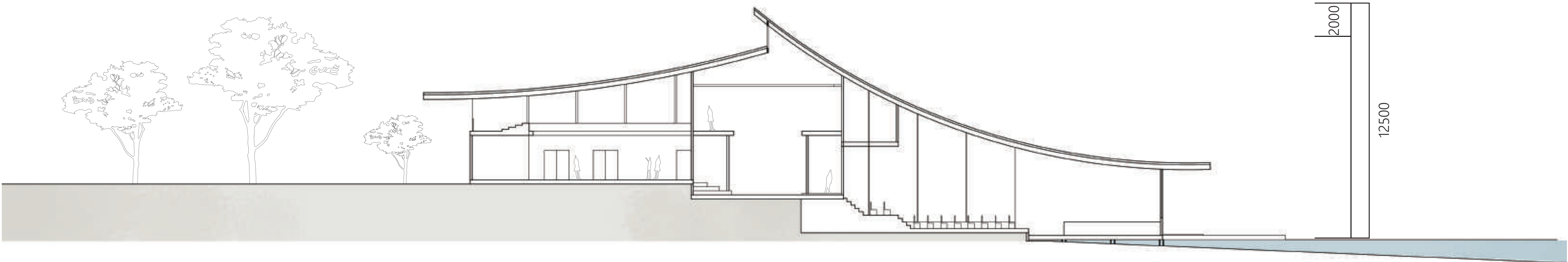


F エリア 佐鳴台側広場

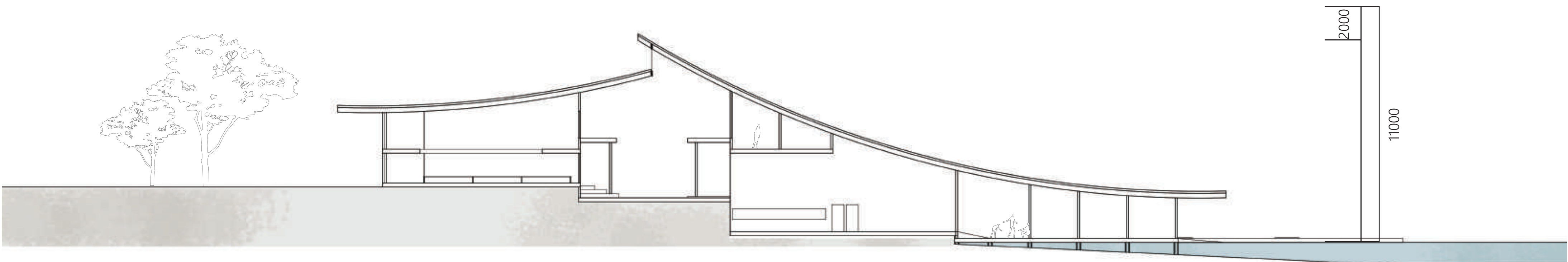
敷地：佐鳴台の住宅地から少し離れた広々とした広場
周りにパン屋やカフェが多く、休憩や小さな子供達の遊び場として利用されている。



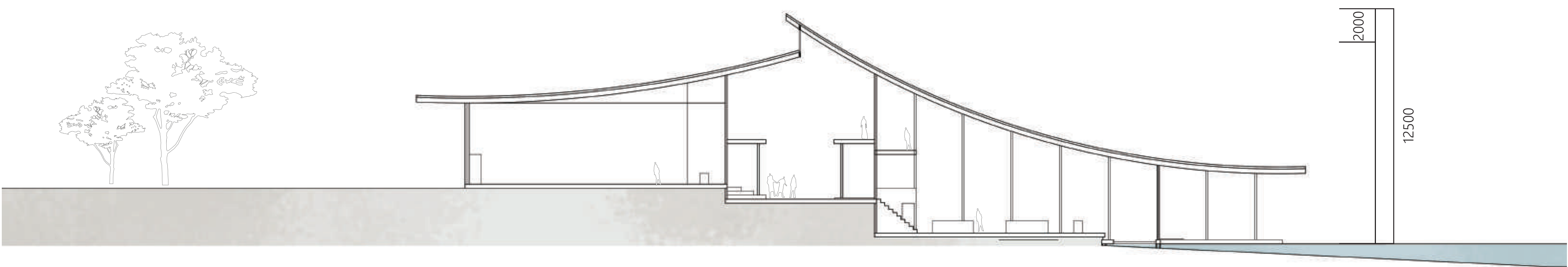
AA' 断面图 S=1/200



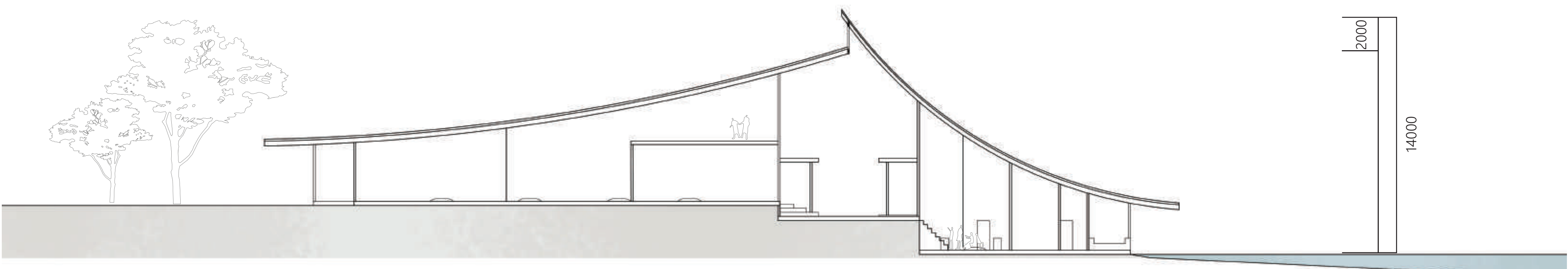
BB' 断面图 S=1/200



CC' 断面图 S=1/200



DD' 断面图 S=1/200



EE' 断面图 S=1/200